玄倉川・モチコシ沢

平成 23 年 6 月 26 日（日）
L 三井、山本、白土、釼持（記録）

山友会に入って一年が経過し、その間に先輩方に連れられてちょこちょこと山に出かけてきた。ベテラン揃いの山友会、その中でも大ベテランの方々とも一緒に行きたいなぁと思っていたが、技術の伴わない私から声をかけさせてもらうのも気が引けて、なかなか機会を得られずにいる。けれど、呑んだ勢いでお願いし、このたび実現した。

モチコシ沢。遡行図を見ると、一見シンプルだけれど 60mの大滝があり、難しそうだ。おむすびと水筒くらいしか入っていない、ほぼ空っぽのザックで臨む。

小川谷出合の林道脇に車を停め、６時過ぎに歩き始める。はっきりしない空模様だけど、雨は降らなそう。暑くも寒くもない気温だ。三井さんとは１年ぶり、山本さんとは初。よろしくお願いしますと挨拶し、入渓点である青崩隧道まで歩を進める。途中、私は気づかなかったがマムシ（子供）の死骸があったらしい。ヘビは超苦手。「山でヘビなんか見たことがない」と白土さんは言うけど、今年に入って既に２回も遭遇している実績があるので、ヘビの居そうな草むらや高巻き、ぽかぽかな岩場が怖い。心配だ。

青崩隧道の手前から沢へ降りる。しっかりした踏み跡だが、早速草ぼうぼう。滝よりも何よりもヘビが怖い。きょろきょろしながら玄倉川へ降りる。（一日中、そんなだった。）

玄倉川から左に入るとすぐに 60mの大滝が落ちている。おぉ～。水量は少し多め。ここでガチャ類を身に着ける。「タワシを持ってくるといい」と事前に教えてもらっていたので、ハーネスにぶら下げる。

【大滝 60mの下段】

白土さんがロープ２本引いてリード。左から取りつき、水流を浴びながらハーケンを打っている。難しそうだ。途中で一回ピッチを切り、山本さんがプルージックで登った後、引き上げで登り始める。岩がヌメっているのでたわしで擦ってみると、おもしろいようにヌメリが取れてフリクションが効く。タワシはとても役に立った。途中、水流沿いから左へトラバース気味にルート取りをしたら、足がズルッと外れて一度落ちる。あーびっく

りした。気を取り直して無理やりよじ登り、どうにか登り切る。大滝の中間にピンがあるのでビレイ点が取れるという三井さんの話だったが、３本あったらしいピンはどれも根元から折れていた。

大滝２ピッチ目も白土さんがリード。左側、ピナクルの左を目指して登る。最後の方が滑りやすい。落ち口には大きな岩がかぶさっていて狭い。左腕で抱え込むように登ればよかったものの、気づかずに水流に顔を突っ込んで苦しい登り方をしたので「顔、洗ってたの？」とゲラゲラ笑われる。

大滝を無事に越えると、うそのように穏やかな渓相が続き、緑もとてもきれい。５ｍくらいの小さな滝がいくつかあり、そのほとんどを簡単に登れる。「このくらいの滝が一番楽しいね」と山本さん。

奥の二俣は、これが二俣？というようなところだった。右の茶色い壁から水が流れていて、ここが本流らしい。どう見ても支流にしか見えない。ボルトが打ってあり、人口登攀で登れるようだけど左の草付から巻いた。崩れやすく、ちょっと怖い。

奥の二俣を過ぎるとすぐに次の目玉、沖の悪場がそびえている。まずは下段 12m。ここも全体的にヌメっていて、三井さんによると以前よりも草が茂っているとのこと。あまり人が入っていないのだろうか。左から登るか右から登るかしばらく考えた末、山本さんが右から取りついた。半分くらい登ったブッシュの中で残置ハーケンを探したり、ハーケンを打とうとしているがなかなかうまくいかないようで、クライムダウンで降りてきた。そこで三井さんがリトライ。土に埋もれていた残置ハーケンを発見し、ランニングをとり左の岩に移る。残置のシュリンゲに足をかけ、また右にルートをとり、草付を通って突破した。とても肋骨を骨折しているとは思えない。その根性というか、意気込みには頭が下がるとともに、とても勉強になる。

山本さんがプルージックで登り、私は引き上げで登ったが、何とも表現しがたい難しい登攀で、残置シュリンゲはもちろん、ザイルも引っ張ってしまった。下から見ている分には登れそうなのに、実際にやってみると全くそうではなくて。でも登り切り、よく頑張ったと言ってもらえた時は純粋に嬉しかった。

上段 18mは左から高巻き。これまでの滝の様子とは裏腹に踏み跡がついていて、なんだか不思議だ。懸垂で沢床へ下りる。

核心部はこれで終わり。あとはちょっとしたゴルジュや小滝があり、巻いたり登ったりして進む。当初の予定では女郎小屋沢下降だったが、思いのほか時間がかかったので東沢乗越から登山道を下山することにし、モチコシの頭の右のコルを目指してガレ場を登る。最後が悪く、ガラガラと崩れていく。不安なので補助ロープを張ってもらい、尾根に出た時にはほっとした。

モチコシの頭から尾根づたいの踏み跡をたどり、ぼろい看板のついた東沢乗越からは若干わかりづらい踏み跡を下り、

小川谷に合流。そのあとはしっかりした登山道を使って小川谷出合の車へ戻った。

　私にはなかなかハードな沢だったけれど、難しい大滝の登攀は初めての経験で、いつにも増して充実感を得た山行になった。これから暑くなるし、登攀要素の強い沢、泳ぐ沢、癒しの沢、いろんなところへ行きたいと思う。

6：00 過ぎ　小川谷出合出発
7：25　大滝
15：00　稜線
17：45　小川谷出合

【奥の二俣】

【沖の悪場　下段 12m】